

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 3 日現在

機関番号：34101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04278

研究課題名（和文）近代の災害救助支援と政府・皇室・宗教の役割に関する実証的研究

研究課題名（英文）An Empirical Study of Modern Disaster Relief Support and the Role of the Government, Imperial Family and Religion

研究代表者

新田 均 (NITTA, Hitoshi)

皇學館大学・現代日本社会学部・教授

研究者番号：50208253

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、日本の近代国家形成期における大規模自然災害への救助・復興とそれに係る政府・皇室・宗教の関与を検証するもので、特に皇室の活動に焦点をあてている。成果は次の3点である。天皇・皇后の意思として行われる被災者への「恩賜金」の「下賜」が、災害救助の先鞭として一定の役割を果たしていることを複数地域の比較研究から明らかにした。皇室の社会福祉事業の歴史的検証のため、宮内庁が所蔵する『恩賜録』を活用し、1868以降の「皇室福祉年表」を作成し今後の研究のための基盤を整えた。第2次大戦終了以前の恩賜金に関する資料の発掘や研究進展のため研究者のプラットフォーム形成の準備を韓国の研究者と実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近代国家形成期における福祉史の検証作業において、等閑視されがちな皇室の福祉事業活動への関与や役割を検証する必要性、基礎資料発掘や活用の方向性、日韓共同研究の実施や在り方などに学術・社会的意義を示した。宮内庁所蔵の『恩賜録』に記録された恩賜金の配布先となる住民側の受容にかかる資料の発掘・分析を通じ、恩賜金の災害支援にかかる先駆的役割の一端を明らかにした。また、皇室福祉年表の作成を通して資料に基づく丹念な検証作業への展開を図った。戦前期、朝鮮総督府時代における「恩賜金」の問題を解明する韓国の研究者との交流を通して両国における学術研究のプラットフォームづくりを進展させたことに社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to examine the both supply and mental support of large-scale natural disasters and the involvement of the government, the Imperial Family and religion in the formation of the modern nation of Japan, with a particular focus on the activities of the Imperial Family. The results are as follows.1)It was clarified from a comparative study of several regions that the Onshikin/Imperial Gift to the victims, which was carried out by the Emperor and Empress, played a certain role as a pioneer in disaster relief.2)In order to historically verify the social relief support of the Imperial Family, we made use of the Onshiroku held by the Imperial Household Agency to prepare the "Imperial Family Welfare Chronology" and set the foundation for future research.3)We conducted preparations for the formation of a mutual platform for study with Korean researchers in order to discover materials related to benefits before the end of World War II and to advance research.

研究分野：日本近代皇室制度

キーワード：近代社会福祉史 災害救助 恩賜金 朝鮮総督府 皇室 近代日本宗教と社会事業

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

昨今、国内外で発生した大規模自然災害は、世界各国・地域の人々に大きな痛みを与え続けている。こうした中で、防災の問題をはじめ、被災者・被災地への支援、生活復興など物心両面にかかる多様な取り組みがなされている。そこで常に問いかけていることは、支援が被災現場の隅々に届いているか、人々のニーズに応える支援の内容や仕組みとなっているかなどの課題である。

問題解決に向けさまざまな方法・手法が開発される重要性はもちろんであるが、同時に、支援のあり方や支援への意識にかかる課題を、社会の諸領域との関係性において省察し歴史的検証を行うことが必要ではないかと考えられる。本研究はこうした認識のもと、これまで進めてきた共同研究を海外の状況をも視野に入れ、さらに発展させることを研究の背景としている。

近代日本の国家体制形成期において、大規模災害への復興支援、それに伴う社会的救助への国家的関与は極めて限定的であったと見られる。こうした状況下、従来等閑視されがちであった、皇室が「恩賜金」を「下賜」することで、救助の先鞭がつけられる慣例が見られる。例えば、明治21（1888）年の会津磐梯山噴火においては、政府による十分な財政的援助の裏付けも確保されておらず、赤十字社や民間団体の救助活動も整っていない状況にあった。そこでは、恩賜金が支援の先鞭となり災害救助に大きな意義を有していた（研究分担者・宮城洋一郎「明治期における皇室の災害救助について―磐梯山噴火を事例として―」『皇學館大学研究開発センター神道研究所紀要』第30輯、平成26年3月）。

また明治24年（1891年）に発生した濃尾地方の大震災でも同様に恩賜金の下賜を通じて救助の先駆けを担い、それを受け政府も総理大臣が現地視察し、勅令で災害支援の資金を確保するに至った。これにより、岐阜県での災害救済事業が本格化し、仏教団体など民間団体の救助活動、義捐金等も広がりを見せていく。このような実態状況を見ると、大規模災害に対する救助活動を支えた皇室の役割は無視できないといえる。しかも、財政的支援に留まらずその影響力を浸透させることで、災害時の混乱を回避するなど、物心両面にわたる支援事業としての役割を果たしたと見ることも可能である。

近代国家形成期の災害救助支援にかかる評価は多面的な検証を必要とするが、本研究においては、一般の公的事業とは異なる民間事業として位置づけられる宗教の関与をも含め、政府＝皇室＝宗教という関係性での救助支援の枠組みを具体的に解明するための基礎を整えようとするものである。

すでに、仏教やキリスト教の社会活動については、近代社会事業史において研究が深められてきたが、神道については、ほとんど未着手の分野であり、近年は藤本頼生（研究分担者）の研究（『神道と社会事業の近代史』2009年）が見られる程度である。ここでは内務省官僚に焦点を当て、神道と社会事業の関係性が明らかにされたが、更なる課題としては、社会事業展開の具体的、実態的な状況解明であり、また諸宗教の相互関係性において、当該問題を扱う必要性である。そこで注目されるのが、皇室の社会福祉事業を通して、諸宗教がどのような立場で活動展開を図ろうとしたかを手掛かりとする研究である。

当研究グループでは、これまで、（1）中央資料としての『恩賜録』（宮内庁書陵部蔵）と当該地方に残る公文書類の収集・データ整理を進め、（2）研究の方向性と枠組みを定めるための基礎研究、（3）『日本社会事業大年表』（谷山恵林編1936年）などを参考に総合的な年表作成を進めてきた。

皇室の社会事業は必ずしも災害支援や福祉事業に限定されるところではないが、近年の遠藤興一による『天皇制慈恵主義の成立』（2010年、学文社）、北原糸子「天皇下賜金からみた日本

近代前期の災害」(『人と国土 21』第 39 巻 3 号、国土 計画協会編、2013 年) など日本近代において皇室が社会事業へ関わることの意味、またそれを可能とした財政基盤の実態を問う研究が岩井忠熊「明治前期の皇室財産と恩賜金」(『立命館大学文学部創設五十周年記念論集』所収、立命館大学人文学会、1977 年)、川田敬一「近代皇室の社会的役割に関する基礎的研究—宮内公文書館所蔵『恩賜録』を中心として—」(金沢工業大学日本学研究所『日本学研究』17、2014 年) などとして提示されてきた。

さらに植民地期朝鮮の状況について、遠藤興一の諸研究(「恩賜・下賜金の支出状況からみた植民地社会事業」『明治学院大学 社会学・社会福祉学研究』第 123 号、2006 年 6 月、「増補改訂恩賜・下賜金の支出状況からみた天皇制慈恵主義」〈上・下〉同誌、第 126 号、第 127 号、2007 年 7 月、同年 12 月)、「数値からみた恩賜・下賜金制度—その支出状況と傾向について—」同誌、第 128 号、2008 年 2 月)があるが、その恩賜金が支援の現場においてどのような実態状況であったかについての検証にまでは及んでいない。しかしながら、当研究グループが進めてきた研究過程において、大韓民国釜山市の東義大学校の金仁鎬教授中心とするグループが、旧朝鮮総督府文書の把握と分析を進めているところから、両グループ間での情報交換と研究交流、共同研究へと発展させる環境を整えるところまでに至った。

## 2. 研究の目的

本研究は、日本の近代国家形成期における大規模自然災害への救助・復興とそれに係る被災者支援の活動を、政府・皇室の関与状況を中心に、宗教との関連を視野にいれて検証する。そしてこれら 3 領域の支援実態がどのような枠組みを生みだし、第二次大戦後における災害支援のあり方に連続・非連続性の問題として如何に位置づけられるかを検討する。具体的には次の 3 点を中心に研究展開を図る。(1) 戦前期の政府・皇室による災害支援「恩賜金」の配分と受容状況を日本及び植民地期朝鮮の実態に即し具体的に検証する。(2) 政府・皇室の行動に当時の宗教がどのような役割を担ったかを、宗教間連携の観点から明確化する。(3) 災害支援の理念と活動がメディア及び学校教育において如何に発信され社会における支援、共生意識に及んだかを明らかにする。

## 3. 研究の方法

研究を進めるうえで重視している点は、(1) 共同研究として、社会福祉学、歴史学、宗教学、教育学など多彩な研究者が参画していることを踏まえ、合同研究会等を通して専門の枠組みを超え、相互連携と批判において総合的・実証的に研究を進めその枠組みを明確にして行くこと。(2) 資料に基づく研究。これまで宮内庁『恩賜録』のなかより災害救援に関する記事の調査を進める一方で、東北地方における恩賜金配布にかかる資料発掘と分析を一部において進めてきたが、被災地域は広域に亘る状況もあり、その対象を広げて資料の所在確認、収集、内容分析などを進めることで、共通点と地域的相違などを明らかにする。また韓国における恩賜金関係資料調査を実施する。(3) 戦前期の恩賜金にかかる問題は、日本国内だけではなく日本統治にかかる海外にも及ぶ点がある。特にこれまで韓国における「恩賜金」研究者との交流が構築されてきており、研究視点や資料の共同利用、内容理解について積極的に意見交換する機会を設ける。(4) 年に 2 度の研究会を開催する以外に、最終年度には韓国の研究者を招き国際ミニ・シンポジウムを行い、研究の成果確認を行うとともに、今後の研究推進にかかるプラットフォームの構築を図る。

#### 4. 研究成果

3か年の研究期間における成果は、各年度に2回刊行し、ネット上（皇學館大学研究開発推進センター・ホームページ）で公開してきたニューズレター（「近現代日本における『皇室と福祉事業』に関する研究会ニューズレター」）に逐次報告してきた。また併せて今後の研究に向けての課題なども示してきた。それらをまとめると次のとおりである。

（1）天皇・皇后の「意思」として行われる被災者への恩賜金の「下賜」が、災害救助の先鞭として一定の役割を果たしていることと、実際の配布に当たっては被災住民へ間違いなく届くために、地方行政機関を中心にシステム化させた確実な方法がとられていたことを複数地域の比較研究から明らかにした。一方、配布金の利活用に当たっては、住民側からは柔軟な運用や疑念の生起しないあり方が求められていたことも具体的に指摘し、恩賜金配布の分析にかかるとの視角や方法について今後の研究展開に有効性を示すことができた。

（2）皇室の社会福祉事業の歴史的検証のため、宮内庁が所蔵する『恩賜録』を活用し、1868年以降の「皇室福祉年表」を作成した。これによって、当該領域の状況を全体的に概観する基盤を整えることができた。今後は本年表を核に、さらに時代を昭和へと及ばせ充実を図り、諸宗教の動向や教育場面での動き、支援に対する社会的反応などの関係事項を紐付けすることで、本研究が目指す方向へさらに近づけ得ると考えられる。

（3）本研究は基本的に福祉の歴史研究であるが、その基礎は史料や関係資料に基づき着実に事実を明らかにすることである。今回の研究で重視してきた第2次大戦終了以前の恩賜金に関する問題は、その運用実態や利活用の在り方である。こうした研究は国内はもとより関係する外国における資料の発掘や理解が必要となる。研究進展のためにはこれからの研究展開を視野に、若手の研究者を含む研究プラットフォームの形成であり、3か年の研究を通して、その準備を韓国の研究者と進めてきたことの意義は大きいと言える。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計41件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 21件）

1. 著者名 金 仁鎬	4. 巻 10号
2. 論文標題 歴史的真相を追求した国際研究の交流を目指して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川田 敬一	4. 巻 10号
2. 論文標題 戦前戦後の災害下賜金	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宮城 洋一郎	4. 巻 10号
2. 論文標題 明治 38（1905）年東北地方大凶作と恩賜金：三県の配付状況の比較を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金・イエスル	4. 巻 10号
2. 論文標題 日韓の学术交流の継続を願って	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 13-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鮮于 性恵	4. 巻 10号
2. 論文標題 常に学びある学术交流	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本 頼生	4. 巻 10号
2. 論文標題 震災復興と皇室・神社：関東大震災と篤志神職をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 李 俊英	4. 巻 10号
2. 論文標題 国際ミニ研究集会に参加して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河 薫	4. 巻 10号
2. 論文標題 朝鮮総督府の螺鈿漆器産業育成政策	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 成 江 紘	4. 巻 10号
2. 論文標題 1920年代天道教少年会の設立と児童運動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 新田 均	4. 巻 10号
2. 論文標題 近現代における「皇室と福祉」研究の意義と共同研究の課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 3-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金田 伊代	4. 巻 9号
2. 論文標題 【調査報告】医療福祉施設内における邸内社：群馬病院 小祝（おぼり）神社と北里大学北里研究所病院 コッホ・北里神社	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮城 洋一郎	4. 巻 9号
2. 論文標題 【史料紹介】福島県庁文書「明治 39 年凶作関係書類（郡市長報告書類）」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 7-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 櫻井 治男	4. 巻 9号
2. 論文標題 大正・昭和の大嘗祭における海外からの「庭積机代物」と大典記念事業	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 3-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮城 洋一郎	4. 巻 38号
2. 論文標題 明治38 (1905) 年東北地方大凶作と福島県：恩賜金の配布をめぐる問題点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東北社会福祉史研究』	6. 最初と最後の頁 40-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小平 美香(Translated by Michael Burtscher)	4. 巻 Vol.73, No.2
2. 論文標題 Female Shrine Priests and Doctrinal Instructors in the Early Meiji Moral Edification Campaign	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Monumenta Nipponica	6. 最初と最後の頁 213-244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1353/mni.2081.0002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小平 美香	4. 巻 136号
2. 論文標題 地域の医療・福祉活動に従事した「根立産院」女三代の記	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『神明さま』	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小平 美香	4. 巻 50号
2. 論文標題 神道における女性観の形成：日本思想史の問題として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本思想史学	6. 最初と最後の頁 111-999
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 室田 保夫	4. 巻 54巻
2. 論文標題 近代日本と留岡幸助：『文明と福祉』をめぐる試論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『社会事業史研究』	6. 最初と最後の頁 59-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮城 洋一郎	4. 巻 第37号
2. 論文標題 明治38 (1905年) 東北地方大凶作と恩賜金 - 岩手県における配付方法を中心として -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『東北社会福祉史研究』	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮城 洋一郎	4. 巻 43号
2. 論文標題 自誓受戒の経典上の根拠について - 福祉実践への手がかりを求めて -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『淑徳大学長谷川仏教文化研究所年報』	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮城洋一郎	4. 巻 復刊第54号
2. 論文標題 明治三十八年東北地方大凶作と「御下賜金」について－宮城県における配付方法を中心に－	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『明治聖徳記念学会紀要』	6. 最初と最後の頁 301-319
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上兼一	4. 巻 第56輯
2. 論文標題 1930～40年代における就学義務規定に関する一考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 皇學館大学紀要	6. 最初と最後の頁 107-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮城洋一郎	4. 巻 第42号
2. 論文標題 奈良時代の菩薩戒の系譜	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『長谷川仏教文化研究所年報』	6. 最初と最後の頁 107-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻井治男	4. 巻 第5号
2. 論文標題 明治17年岡山県海嘯被害と恩賜金 岡山記録資料館調査より	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 3頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮城洋一郎	4. 巻 第5号
2. 論文標題 明治38(1905)年東北地方大凶作と恩賜金：岩手県における配布方法について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 3 4頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井上兼一	4. 巻 第5号
2. 論文標題 国定教科書における「光明皇后」教材：記述の変化に着目して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 4頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡本和真	4. 巻 第5号
2. 論文標題 沈没事故における恩賜金支出	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 4 5頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金田伊代	4. 巻 第5号
2. 論文標題 徳島調査報告：阿波井島保養院に関して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『近現代における「皇室と福祉事業」に関する研究会ニューズレター』	6. 最初と最後の頁 5-6頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 金田 伊代
2. 発表標題 阿波井島保養院における神道的背景
3. 学会等名 第23回日本精神医学史学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮城 洋一郎
2. 発表標題 明治38（1905）年東北地方大凶作と恩賜金 - 岩手県における配付方法を中心に -
3. 学会等名 社会事業史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金田 伊代
2. 発表標題 近現代の精神医療史と神社：精神病と神道の関わり
3. 学会等名 第22回日本精神医学史学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 櫻井 治男
2. 発表標題 ムラ社会における災害の記憶化と支えあい
3. 学会等名 日本人間関係学会第60回記念関西地区会研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金田 伊代
2. 発表標題 神職 新開譽一と阿波井島保養院：神道と精神病の関わり
3. 学会等名 第72回神道宗教学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金田伊代
2. 発表標題 新開譽一と阿波井島保養院：神道と精神病者との関わり
3. 学会等名 皇室福祉研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 遠藤慶太
2. 発表標題 年号と漢語の権威
3. 学会等名 国立歴史民俗博物館国際シンポジウム 年号と東アジアの思想と文化（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤本頼生
2. 発表標題 近代以降の皇室祭儀と皇室関係法令について
3. 学会等名 政教関係を正す会平成29年度第2回研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 櫻井治男
2. 発表標題 日本の地域コミュニティと神社
3. 学会等名 中国社会科学院日本研究所・皇學館大学共催中日共同シンポジウム「東アジアの宗教と伝統文化研究」(国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 室田 保夫	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 267
3. 書名 『山室軍平』	

1. 著者名 藤本 頼生	4. 発行年 2020年
2. 出版社 錦正社	5. 総ページ数 123
3. 書名 『明治維新と天皇・神社：150年前の天皇と神社政策』	

1. 著者名 井上兼一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 586 (本人執筆分209-231)
3. 書名 『国家神道と国体論：宗教とナショナリズムの学際的研究』	

1. 著者名 冬月 律	4. 発行年 2019年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 268
3. 書名 『過疎地神社の研究 人口減少社会と神社神道』	

1. 著者名 沖田行司編・室田保夫他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 217 (本人執筆分177-198)
3. 書名 『新編 同志社の思想家たち 上』	

1. 著者名 新田 均	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明成社	5. 総ページ数 63
3. 書名 『皇位の継承』	

1. 著者名 宮城 洋一郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 203
3. 書名 『日本古代仏教の福祉思想と実践』	

1. 著者名 長谷川匡俊編・宮城洋一郎・清水海隆 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 淑徳大学長谷川仏教文化研究所	5. 総ページ数 142 (本人執筆分23-40)
3. 書名 『現代日本における仏教社会福祉事業の歩み(2001~2010)』	

1. 著者名 沖田行司編・室田保夫他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 246 (本人執筆分106-125)
3. 書名 『新編 同志社の思想家たち 下』	

1. 著者名 鷗沼憲晴、他9名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 社会福祉法人三重県社会福祉協議会	5. 総ページ数 29 (本人執筆分2 3)
3. 書名 『平成29年度社会福祉協議会における成年後見の取組み報告書』	

1. 著者名 藤本頼生、斎藤智朗	4. 発行年 2017年
2. 出版社 神道政治連盟国会議員懇談会	5. 総ページ数 55 (本人執筆分1 20)
3. 書名 『「皇位」と「象徴」 - 皇室の制度を考える』	

1. 著者名 藤本頼生	4. 発行年 2017年
2. 出版社 神社新報社	5. 総ページ数 174
3. 書名 『よくわかる皇室制度』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>「近現代日本における『皇室と福祉事業』に関する研究会ニュースレター第10号」(令和2年3月31日)  <a href="http://kenkyu.kogakkan-u.ac.jp/files/upload/kenkyu_5ef9400192f83.pdf">http://kenkyu.kogakkan-u.ac.jp/files/upload/kenkyu_5ef9400192f83.pdf</a>  「近現代日本における『皇室と福祉事業』に関する研究会ニュースレター第9号」(令和元年9月30日発行)  <a href="http://kenkyu.kogakkan-u.ac.jp/files/upload/kenkyu_5e813a6bd727f.pdf">http://kenkyu.kogakkan-u.ac.jp/files/upload/kenkyu_5e813a6bd727f.pdf</a>  「近現代日本における『皇室と福祉事業』に関する研究会ニュースレター第8号」(平成31年3月31日発行)  <a href="http://kenkyu.kogakkan-u.ac.jp/files/upload/kenkyu_5d19973d96616.pdf">http://kenkyu.kogakkan-u.ac.jp/files/upload/kenkyu_5d19973d96616.pdf</a>  「近現代日本における『皇室と福祉事業』に関する研究会ニュースレター第7号」(平成30年9月30日発行)  <a href="http://kenkyu.kogakkan-u.ac.jp/files/upload/kenkyu_5c6d076b386a0.pdf">http://kenkyu.kogakkan-u.ac.jp/files/upload/kenkyu_5c6d076b386a0.pdf</a>  「近現代日本における『皇室と福祉事業』に関する研究会ニュースレター第6号」(平成30年3月31日発行)  <a href="http://kenkyu.kogakkan-u.ac.jp/files/upload/kenkyu_5b149af8eb8f3.pdf">http://kenkyu.kogakkan-u.ac.jp/files/upload/kenkyu_5b149af8eb8f3.pdf</a>  「近現代日本における『皇室と福祉事業』に関する研究会ニュースレター第5号」(平成29年9月30日発行)  <a href="http://kenkyu.kogakkan-u.ac.jp/files/upload/kenkyu_5a1e39772de27.pdf">http://kenkyu.kogakkan-u.ac.jp/files/upload/kenkyu_5a1e39772de27.pdf</a></p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宮城 洋一郎  (Miyagi Yoichiro)  (10190745)	種智院大学・人文学部・教授(移行)    (34308)	
研究分担者	藤本 頼生  (Fujimoto Yorio)  (30612163)	國學院大学・神道文化学部・准教授    (32614)	